

新生児低酸素性虚血性脳症に対する自己臍帯血幹細胞療法に関連する 情報提供のご理解とご協力について

低酸素性虚血性脳症では、出生前後の問題により新生児仮死状態となり、神経細胞への傷害が起こり、半数の児は死亡か脳性麻痺等の重度神経後遺症を残します。

低体温療法はこの新生児低酸素性虚血性脳症に対して標準治療として行われていますが、万能の治療法ではありません。依然として有効な治療法の乏しい新生児低酸素性虚血性脳症に対し、幹細胞を多く含む自己臍帯血を静脈内投与することにより、脳性麻痺などの後遺症を減少・軽減させることを目的とした自己臍帯血幹細胞療法が、神経学的予後を改善するか評価するために臨床試験を行っています。

そこで、この自己臍帯血幹細胞療法の臨床研究では、低体温療法をおこなったお子さまの画像検査や脳波検査などを含めた出生後の情報や、母体及び妊娠経過記録をこの研究に活用させていただきます。

これらの結果はすべて匿名化した上で解析しますので、個人情報が出回る可能性はございません。 研究を実施するためには、できるだけ多くの記録が必要となりますので、多くの皆様のご理解とご協力をお願いしております。

なお、研究への参加を希望されないご家族の方は主治医にお話し下さい。ご協力いただけなくても、診断や治療、対処などにまったく影響はありませんのでご安心下さい。

研究に関する詳細 お問い合わせ

代表；淀川キリスト教病院 小児科 鍋谷 まこと・佐野 博之・豊 奈々絵
〒33-0024

大阪市東淀川区柴島 1-7-50 宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション

電話番号；06-6322-2250 NICU